

1. 評価結果概要表

作成日 2007年10月12日

【評価実施概要】

事業所番号	2671500102
法人名	社会福祉法人 長生園
事業所名	グループホーム幸せの里
所在地	京都府南丹市園部町上木崎町坪ノ内19番地 (電話) 0771-62-0223

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館		
訪問調査日	平成19年9月27日	評価確定日	平成19年11月19日

【情報提供票より】(19年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 6月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 4 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 7.5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 平屋 建ての
------	-----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,800 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	(有) 143,400 円	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(無) 円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200円

(4) 利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 78.4 歳	最低	70 歳	最高	86 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立南丹病院・もみじヶ丘病院・医療法人清仁会・大町歯科医院 他
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

50年を超える歴史を持ち、地域に根ざして築いてこられた大型の母体を持つこのグループホームは、緑豊かな自然の中に立地し、隣接の母体との協力の基、地域交流や医療連携、職員体制などさまざまな面で連携がとられており、安心出来る体制となっています。ホーム内はバリアフリーでリビングは天井が高く、木の梁がめぐらされており、広くて、明るい居心地の良い空間となっています。入居者は自分のペースに合わせて、食事づくりや後片付け、掃除などの役割を持ったり、歌を歌ったり、俳句をつくったり、絵を描いたり楽しみ事を持って思い思いに過ごされています。その人らしさを大切に職員は何でも話し合いをしながらケアに取り組まれています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者、ケアマネージャー中心に自己評価され、職員に回覧して意見を求められています。自己評価、外部評価について、職員は意義を理解し有意義な取り組みとしています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点であった研修について、出来るだけ参加し、参加後は職員間で共有出来るように会議で報告したり、報告書やレジュメの回覧を徹底しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者、家族、地域住民の代表、市職員、包括支援センター、グループホーム知見者が参加する運営推進会議でグループホームの取り組み報告をはじめ活発な情報交換の場となっています。自己評価票、外部評価結果についても報告し、話し合われており、サービスの向上に活かしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームに来られた際に家族が意見・要望を表せる雰囲気づくりをしています。意見箱の設置の他、書面にてホームの窓口以外にも第三者委員を設け、説明をしています。家族との信頼関係が構築されていますが、遠慮される心情をおしはかり、さらに家族の思いを知るためにもアンケートの実施などの検討が期待されます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	母体が地域に根ざしており、幼稚園児が花を持ってきたり、小学校へ絵を観に行ったり、笛を吹きに来てもらったり、中学生、高校生がコンサートを開いたりさまざまな交流があります。また、地域のお祭りへの参加、ホームでの敬老会に地域の方を招いたり、母体法人での喫茶店利用を通して積極的に地域の方と交流が図られています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「和みの中で尊厳を持って、安心して生活できるよう支援します」という理念を基に地域生活の継続支援など職員間で地域密着型サービスとしての意義を確認し合っている。	○	地域の中で暮らし続けることを支えるサービスとして実践されているが、理念の中に、地域との関わりについてさらに明文化される事が期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は毎朝とミーティング時に唱和している。職員間での話し合いの際は理念を掘り下げて、共有しながら実際のケアに取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体が地域に根ざしており、幼・小・中・高との交流や地域のお祭りへの参加、ホームでの敬老会に地域の方が来られたり、母体法人での喫茶店利用を通して積極的に交流が図られている。また、秋祭りには神輿が玄関まで訪れてくれるなど地域との関係が構築されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、ケアマネージャー中心に自己評価され、職員に回覧して意見を求められている。自己評価、外部評価について職員は意義を理解し有意義な取り組みとしている。また、前回の改善点であった研修については、職員間で共有出来るように会議での報告し、報告書やレジュメの回覧を徹底している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、地域住民の代表、市職員、包括支援センター、グループホーム知見者が参加する運営推進会議でグループホームの取り組み報告をはじめ活発な情報交換の場となっている。自己評価票、外部評価結果についても報告し、話し合われており、サービスの向上に活かしている。		

グループホーム幸せの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	1週間に1回保健所を訪問したり市担当者の方とは常に連携が取れており、報告をしたり、情報をもらったりしている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族がホームに来られた際や電話にて日頃の暮らしぶりや健康状態について報告している。季刊誌として写真入りのホーム便りを発行し、入居者の暮らしぶりや、職員の紹介をしている。また、金銭管理については定期的にまとめて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに来られた際に家族が意見・要望を表せる雰囲気づくりをしている。意見箱の設置の他、書面にてホームの窓口以外にも第三者委員を設け、説明をしている。	○	家族との信頼関係が構築されているが、遠慮される心情をおしはかり、さらに家族の思いを知るためにもアンケートの実施の検討が期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係でのケアの大切さを理解しているが、法人内でのやむを得ない異動がある。その場合は引継ぎ期間を持ち、除々に馴染めるように工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や認知症の実践者研修やグループホーム協議会での外部研修に出来るだけ参加できるように配慮している。研修受講後は会議で報告し、レジュメを回覧して職員間で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、様々な勉強会や困難事例検討会、職員交換研修を通して交流し、サービスの質の向上を図っている。		

グループホーム幸せの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の面接時に必ず職員が自宅に行き、その方がどのような生活をされていたのかを知るように努めている。また、体験的に利用したり、他の入居者と一緒に昼食をとってもらったり馴染みながらの利用を支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の方法など入居者より教えてもらう場面を大切にしておき、職員は入居者と支え合ったり、喜びを分かち合い、協働しながら生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションや表情、行動より意向の把握に努めている。また、家族より情報を得るようにしている。	○	今後センター方式を活用したアセスメントの実施が期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者とは日々の関わりの中で、家族とは訪問時などに意見を聞き、職員の意見はほぼ全員が出席するカンファレンスにて話し合い、それぞれケアプランに反映している。	○	さらに入居者主体の暮らしを反映し、本人がより良く暮らすため内容が盛り込まれたケアプランの作成が期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月カンファレンスにて職員間で話し合わせ、ケアプランは3ヶ月に1回、期間が終了する前に見直されており、状態に変化があった場合はその都度見直されている。		

グループホーム幸せの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者、家族の状況に合わせて通院の支援や美容院、買物などの個別外出を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に入居者と家族の意向にそった主治医の支援をしている。隣接の特養に診療所があり内科、整形外科、精神科、皮膚科等の医師が協力医療機関より派遣されており、医師との連携もとれている。また看護師による健康管理も実施されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にターミナルケアについての説明をしている。状態の変化があった際に家族、かかりつけ医、職員で話し合いターミナルの対応を決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重し、言葉づかいに配慮し、職員間でも注意し合っている。ドアをノックしてから入室するなど居室での対応も徹底している。また、個人情報に関しては事務所の奥の部屋で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に自然体を心掛け、決して急かさず、その方に合ったペースでの対応を支援している。		

グループホーム幸せの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に調理や盛り付け、食事、後片付けを行い、出来る事をしてもらっている。頂いたお米や収穫した野菜を使って料理したり、味付けや味見もしてもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が可能で、一人ひとりの希望にそった入浴の支援をしている。基本的に夜間入浴の意向はないが、今後、本人、家族から好みや習慣をよく聞いてさらに個別対応していく予定である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯・布団干し、畑仕事、掃除、カレンダー替えなどの役割事や歌を歌ったり、絵を描いたり、俳句づくり、書道、生け花などの楽しみ事を支援している。個別ケースに生活歴を記録し、新しい事も書き足しながら、個々の利用者の把握をし、それぞれに合わせた支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望にそって、散歩や特養や近所の喫茶店、パン屋、買物、ドライブなどに出掛けている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守りの徹底や入居者の外出傾向を把握して一緒に付いて行ったりしながら、日中は玄関の鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体での避難訓練やホーム独自で夜間を想定した訓練、消火器の使い方の訓練を実施している。またその際地域の消防団の協力を得ている。		

グループホーム幸せの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスが考えられた法人と同じメニューが提供されており、水分もなるべくとれるように支援している。食事・水分摂取量については必要な方のみ記録している。法人主催の給食会議に参加し利用者の意見が反映されるよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、木の梁がめぐらされ、広くて、明るいリビングには、季節の花が飾られており、入居者が作った貼り絵や行事の際の写真、旬のものを案内した食品のポスターが貼られており、居心地良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やテレビ、これまで使っていた馴染みのものを持ってこられており、その人らしい過ごしやすい居室づくりがされている。		